



稲積中だより

たくましい心身 豊かな心 高い知性 健全な社会性

令和8年10月16日

第8号

札幌市立稲積中学校 発行

<http://www.inazumi-j.sapporo-c.ed.jp>



第41回 学校祭を終えて

生徒会担当教諭

先日、稲積中学校第41回学校祭が無事に幕を閉じました。全校生徒が心を一つにし、創り上げたあの熱気と感動は、たくさんの生徒の心に刻まれたことと思います。一人ひとりが真剣に向き合い、時には壁にぶつかりながらも仲間と支え合ってやり遂げた経験は、最高の笑顔と大きな達成感をもたらしてくれました。また、全校が丸となって一つの行事を創り上げたプロセスやステージ発表や展示の制作、当日の活動に至るまで、生徒たちが互いに声を掛け合い、工夫を重ねながら高め合う姿は、まさに学校祭テーマ「HOT」を体現した熱い気持ちの伝わる発表でした。

学校祭が終わった今、生徒たちはまた一步、たくましく成長いたしました。ここで得た「仲間と力を合わせてやり遂げた自信」や「自分たちの手で成功させた達成感」は、これからの学校生活や日々の学習、そして次の目標へと繋がる貴重な糧となるはずです。

最後になりましたが、開催にあたり温かいご声援をくださいました保護者の皆様、心より御礼申し上げます。



「第41回稲積中学校祭を終えて」

第41期生徒会長

今回の学校祭は、1、2年生のときとは少し違い、実行委員としての仕事がありました。準備の段階から、自分の部門とは別に、シナリオの制作や衣装・道具の準備など、たくさんのことに取り組みました。リハーサルを通して、改善点をみつけたり、新しい取組をつけ足したりしていきました。これまでより学校祭準備が忙しく大変でしたが、本番では、練習の成果がでました。当日はシナリオ通りにほとんど進んでいきました。今までは各部門の発表をただ盛り上がってみているだけでしたが、今年はカメラで写真を撮ったり、実行委員席で観たりと、まったく違う学校祭になりました。大変ではありましたが、しっかりやり遂げた達成感と充実感がありました。これは、誰もができる経験ではないと思うので、やってよかったと思います。今までとは違う学校祭を自分たちみんなて完成させることができ、とても嬉しく思います。

「創作と発表」

1年 代表生徒

私は今年の学校祭で仲間とともに「創作」するということを学びました。

練習を始めた頃は常に台本を手元に置き、「ここにこう書いてあるから……」などと台本通りに完璧になるように必死でした。台本を丸ごと覚える気など更々なく、自分の担当箇所ばかり練習し、他のパートの練習には耳も貸さずにいました。そんなとき、「発表会と創作どちらがしたいのだ」と安齋先生に訊ねられました。私ははっとしました。確かに、今の私がやろうとしているのは発表だ、と。それから私は「創作」することを目標にするようになりました。台本暗記なんてスタート地点に過ぎない、みんなで一つのを創るのに自分に関係ないことなどあるわけない、と気づきました。そして本番はすごく楽しく演技ができました。これからまたこのような活動が必要なきときには何度も何度も試行錯誤を繰り返してよりよいものを目指し、仲間とともに創作の楽しさを味わうことができるようにしたいです。

「学校祭を終えて」

2学年 代表生徒

今年の学校祭をこえる学校祭はもうない。そう思える学校祭でした。

どうしたら観客が参加する楽しさを味わえるか、みんな本気でした。当日は予期せぬことも起こりました。でも、私たちステパBは全力で観客を楽しませる目的に向かっているから、全員で臨機応変に動きました。本番に起こったアクシデントを楽しめたのも、チームの仲間を信じられたからです。もう一つ、なかなか超えられないと思ったのは3年生の歓声です。自分の出番以外も含めて、学校祭全体を盛り上げようとしていました。3年生が率先して声を出してくれたことで、1・2年生の心までHOTになり、学校中が一体感で包まれていました。来年、これを超える学校祭をつくることは難しい挑戦です。最高学年になる私たちが今から学校全体を思って行動することでしか超えられない。そんな高い壁をみんなで登っていくことにワクワクしています。